



《 国産大豆 》

19年産大豆は、作付減少、集荷増加の見込

農水省は、6/28に国産大豆協議会を開催し、平成19年産大豆の生産状況等について報告されました。それによると、作付面積は14万ha（18年産は14万2100ha）、収穫量は23万トン（平成18年産は22万9200トン）とされました。

また、全農、全集連の生産計画によると、作付予定面積は、10万8313ha、集荷予定数量は、16万8903トンとされました。

そのうち、全農分は、作付面積10万5865ha（18年産は11万252ha）で、前年比96%。宮城、愛知、佐賀が増加し、北海道、栃木が1割以上減少の見込みです。集荷見込は、16万2810トン（18年産15万5430トン）で、前年比105%。昨年、台風の被害を受けた福岡、佐賀が大幅に増加し、北海道、栃木が作付面積減少の影響で、1割以上減少の見込みです。

主要品種の動向をみると、作付面積が増加するのは、タンレイ（前年比118%）、ミヤギシロメ（前年比109%）、ナカセンナリ（前年比106%）、あやこがね（前年比105%）、フクユタカ（前年比102%）です。

そして、作付面積が減少するのは、スズマル（前年比70%）、納豆小粒（前年比83%）、とよまさり（前年比89%）等です。

集荷見込が増加するのは、むらゆたか（前年比245%）、フクユタカ（前年比142%）、サチユタカ（前年比130%）、おおすず（前年比112%）、タンレイ（前年比111%）等です。

そして、集荷見込が減少するのは、スズマル（前年比59%）、納豆小粒（前年比75%）、とよまさり（前年比78%）等となっております。

全集連分は、作付面積2448ha（18年産不詳）、集荷見込6093トン（18年産7613トン）で、前年比80%です。全農同様に北海道での作付面積減少が、集荷見込の減少に影響しております。納豆向けの大豆、北海道産大豆の減少による市場への影響が懸念されます。

7月の落札率は挽回したが、価格は下落

7月に2回実施された18年産国産大豆の第17～18回入札結果は、日本特産農産物協会の発表によりますと、上場数は8472t、落札が3106t、落札率が37%、平均落札価格は前月比60kg/756円安という結果となりました。落札率は、半年振りに上昇したものの、価格は、全体的に下落している状況です。ただし、北海道産大粒とよまさりは、7444円と先月よりも値上がりしております。

次回の入札は、8/8に4000t程度上場予定です。これで、18年産大豆の入札は終了となりますので、ご希望の銘柄がございましたら、弊社の営業担当者までご連絡下さい。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>



《 中国産大豆 》

主産地での天候悪化の懸念も

中国産大豆の一大主産地である黒龍江省統計局からの情報によると、'07年度黒龍江省における栽培面積は、トウモロシ5219万畝(ムー)(前年比17.5%増)、水稲3543万4千畝(前年比13.1%増)、小麦356万畝(前年比4.3%減)、大豆5297万畝(前年比10.3%減)となっており、当初の予測通りトウモロコシの大幅増、大豆の大幅減となっております。

また、黒龍江省防水抗乾センターの情報では、同省の一部地域で少雨、旱魃に見舞われて多くの貯水池が底をついている状況になっていたり、旱魃の影響で、一部作物は生育速度が遅くなったり止まったりしている状況が散見されております。今後も引き続き天候に注視する必要があります。

* 1畝(ムー) = 約0.1667エーカー = 約6.7アール

《 北米産大豆 》

米国大豆作付面積、収穫面積が大幅減少(07/08年度)

アメリカ農務省が6/29に発表した米国大豆予想作付面積、収穫面積によると、予想作付面積は、前年比15.1%減少の6408万エーカーとなり、3月の意向調査(6714万エーカー)よりも大幅に減少しました。予想収穫面積も同様に、前年比15.2%減少の6329万エーカーとなりました。これは、'95年以降で最低の水準で、トウモロコシへの作付け移行が要因となっております。また、'07年の米国大豆のGM大豆の予想作付比率も発表され、前年よりも2ポイント上昇して91%となりました。

さらに、アメリカ農務省が7/12に発表した世界の大豆生産高予想では、2億2205万トンと前回よりも1.5%減少(328万トン減少)されました。これは、アメリカの作付面積が大幅に減少されたことが影響しております。



多数の参加をお待ちしております

《 トピックス 》

南米産大豆セミナー開催予定

バイオエタノール需要の影響で、大豆の国際相場は日々予断を許さない状況です。今後、NON GMO大豆の供給においても、手当てが厳しい状況になってくるものと思われ、北米産に限らない新たな大豆産地を開拓する必要に迫られてきております。

そこで、弊社では、9月上旬、仙台におきまして、南米産大豆の動向についてのセミナーを開催いたします。当日は、商社のブラジル(サンパウロ)支社から講師を招く予定ですので、是非ともご参加頂きまして、現場の生の声を実感して頂ければと思います。詳細については、弊社の営業担当者にお問い合わせ下さるようお願い申し上げます。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL: <http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>